



令和7年の節分は 2月2日
立春は 2月3日

「節分過ぎれば 日はまた昇る」

寒い日が続くこの時期、この言葉に元気が出てくる気がしませんか？

「日はまた昇る」とは、「何事もうまくいく時もあればそうでない時もある」という意味で「物事がうまくいかないと感じている人に対してかける励ましの言葉として使われる事が多い」とありました。

「節分過ぎれば」の節分は「季節を分ける日で、みんなが健康で幸せに過ごせるように願って悪いものを追い出す日」とありました。

季節の変わり目は「邪気が入りやすい」と考えられ、又この2月上旬は寒く、体調をくずしやすいことから「邪気を祓い清め、無病息災を祈る」行事として室町時代くらいから広く行われて来た行事だそうです。

節分の鬼は「悪いものの象徴」で

青鬼は 水の色で『限りない欲の心』

赤鬼は 燃え盛る火の色で『怒りの心』

黒鬼は 恨みやねたみのみにくい『愚痴の心』

緑鬼は やる気がないなど『無気力な心』

黄鬼(白鬼)は 『妄想や後悔、思いあがった心』

でもね、私たちには『福の心』もあります。

節分の行事を楽しみながら子どもたちに、やさしく伝えていきたいですね。



編集後記

2024年の世相を表す漢字は、『金』でした。

皆さんは、どの漢字を選ばれたでしょうか？私たちは、「動」を選んでみました。

昨年1月1日に起こった『能登半島地震』は、お正月を迎えてにぎわうお茶の間を瞬時にして地獄絵に変え、翌日の羽田空港の飛行機事故と波乱の幕開けとなりました。

各地でも自然災害が発生し、世界の政情も大きく動いています。

静かに深く不安が広がっているような感じがします。

保護司会だよりの編集会議では、こうした一年間の出来事を話し合いました。

その中で、「不安」をそのままにせず、災害など想定してとの話になりました。

食料品の備蓄、家具の配置、災害グッズの準備など出来ることから始めましょう。

今年が平和で平穏な一年になりますように。



人はみな
生かされて
生きていく

更生ペンギンの
サラちゃん

更生ペンギンの
ホゴちゃん

斜里地区更生保護サポートセンター
保護司会だよりの

〒099-4406
斜里郡清里町水元町12番地 【責任者】 斜里地区保護司会
清里町コミュニティセンター内 会長 馬淵

電話 0152-26-7701
FAX 0152-26-7704
開所時間 月曜日～金曜日 午前10時～午後4時

第8号
2025年
(令和7年)
1月1日発行

令和6年度の活動を振り返って

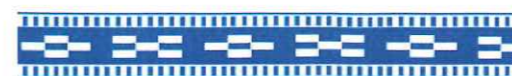
斜里地区保護司会 会長 馬淵 一

新年あけましておめでとうございます。
この「保護司会だよりに」第3号から携わらせて頂き、早8号を迎えるに至っております。年々社会情勢も複雑になり、世界情勢が身近に迫る勢いで、国内情勢の中だけでは立ち行かない状況も多々あるようにも思えます。未だに居座るコロナやスマホ等のデジタル機器が悪用されて、簡単に犯罪者になってしまう世の中での保護司会の活動は、更に重い課題に向き合っていかななくてはなりません。そのような中で、遠距離にある保護司会とのオンライン交流会が開催された事は明るい前向きな活動でありました。

令和6年3月28日、斜里町の「ゆめホール知床」に於いて、寒さ厳しい北海道の斜里地区保護司会と、日本列島の最南端に位置する沖縄県八重山保護区(石垣市・竹富町・与那国町)の保護司会とオンライン交流会を開催しました。

斜里地区保護司会から18名、八重山保護区保護司会から8名が出席しました。

北と南で遠距離ではありますが、それを超えてより親近感が湧き、八重山保護区保護司会から、「今後も交流を深めて行きたい」との



八重山ミンサー (ミンは綿、サーは狭い帯)

言葉に感銘を受けた事が強く印象に残っています。

また、更生保護制度施行75周年記念北海道更生保護研究大会が、10月30日に函館アリーナで開催され、5名が出席しました。

函館市長 大泉 潤 氏の記念講演の後、函館大学附属有斗高校マーチングバンドの皆さんによる演奏を楽しませて頂きました。

社会状況は楽観できませんが、更生保護司会としての活動を本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

函館アリーナ



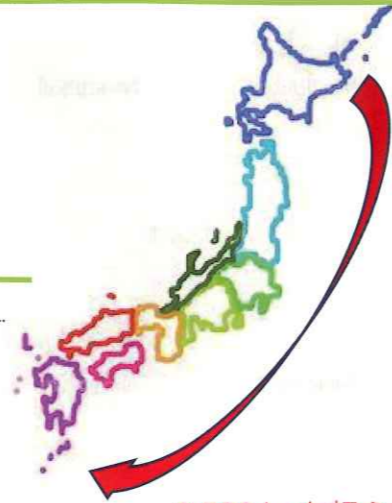
(上空から)

(正面入り口)



日本全国で活動する保護司

日本全国で46,584人(令和6年現在)の保護司が活動しています。斜里地区保護司会は斜里町・清里町・小清水町で構成し、37人の保護司が活動しています。



3,000 kmを超えて

斜里地区保護司会

八重山保護区とのオンライン交流会を開催

令和6年3月28日『斜里地区保護司会』と日本の最南端に位置する沖縄県『八重山保護区保護司会』によるオンライン交流会を開催しました。八重山保護区は、石垣市・竹富町・与那国町(日本最西端)の1市2町で構成されています。

また、斜里町は竹富町と国立公園指定が契機となり、『姉妹町盟約』を昭和48年に結び産業や人材の交流が続いています。

交流会は、参加者の自己紹介に始まり約3,000km離れている両地域の気候や農業・漁業観光産業の話題や社明運動の内容紹介・保護司会活動などの意見交換を行いました。



地域における“息の長い”支援 ～更生保護に関する地域援助～

『犯罪や非行した人を地域社会の理解・協力得て、自立し改善更生することを助けることによって、安心安全な地域社会を作る』➡これを『更生保護』といいます。
安心・安全な町にするために、力を合わせていきましょう。



トコさん

斜里地区保護司会 斜里町分区

安心・安全な町的发展を願って

斜里町の保護司は法務大臣から委嘱された15名により、社会奉仕の精神をもって罪を犯した人や少年たちの社会復帰を支援するとともに犯罪の予防のための諸活動に取り組んでいます。

令和6年7月の「社会を明るくする運動」強調月間では斜里町長との懇談や学校訪問のほか、公共施設前8か所に「啓蒙用横断幕やのぼり旗」を設置しました。

『しれとこ斜里ねぶたまつり』期間中に開催された「姉妹町の竹富町」「友好都市弘前市」物産展会場で、来場者にパンフレットなど手渡す街頭啓発を更生保護女性会と合同で実施し、安心・安全な地域社会の発展を願う取り組みを実施しました。



サラちゃん ホゴちゃん



でん坊

斜里地区保護司会 小清水町分区

更生保護女性部と協力しながら！



サラちゃん ホゴちゃん

小清水町分区では、10名の保護司が活動しています。今回は、その活動の様子をお届けします。

令和6年1月16日に更生保護女性会との合同行事「新春更生保護の集い」を開催し、中川保護観察官を招き『更生保護を支える人たち』の講演をして頂きました。

そして、能登半島地震災害義援金を更生保護女性会と共に役場保健福祉課に届けました。

7月1日からの『社会を明るくする運動』では、小清水町長に『内閣総理大臣メッセージ』を伝達し町内各所にのぼり旗を立てました。

7月30日には、小清水小学校において開催された『学童緑日』に参加し、駄菓子の詰め合わせをプレゼントしました。



きよっぴ

斜里地区保護司会 清里町分区

新たに2名の保護司を迎えて

清里町の保護司会には新たに2名の保護司が加わり、12名で『社会を明るくする運動』(社明運動)を中心に活動しています。社明運動の推進に当たり、7月1日に清里町長に内閣総理大臣メッセージを伝達し、町内の各所にのぼり旗と横断幕を設置しました。また、町内の小中高校を訪問し学校の様子をお聞きし、犯罪や非行等について自分の考えや体験を踏まえた作文の依頼をしました。

奉仕活動として清里町駅の花壇に花の苗の植え付け・後片付けを更生保護女性会と共に行いました。さらに啓発活動として清里高校の『学校祭』において町民へのパンフレット等を配布しました。

パークゴルフ協会の協力を得て令和6年度「社明杯パークゴルフ大会」を開催し、熱戦が繰り広げられました。



サラちゃん ホゴちゃん

